令和４年　１１月　２８日

令和４年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立　姿川第二　小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和４年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和4年4月19日（火）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，理科，児童質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　１２７人

②　算数　　１２７人

③　理科　　１２７人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数，理科の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

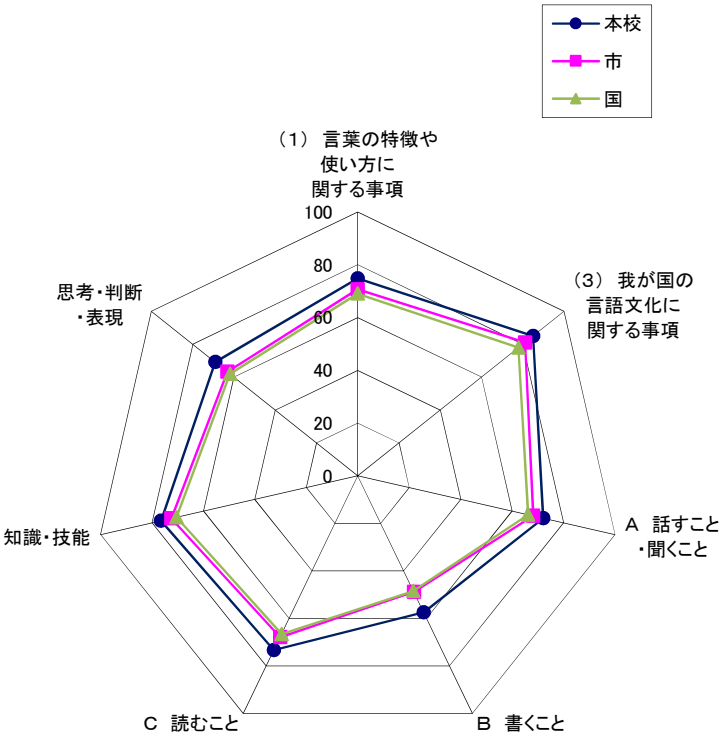
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立姿川第二小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	74.8	70.7	69.0
	（2） 情報の扱い方に関する事項			
	（3） 我が国の言語文化に関する事項	85.0	81.1	77.9
	A 話すこと･聞くこと	72.1	68.2	66.2
	B 書くこと	57.5	48.9	48.5
	C 読むこと	73.3	67.9	66.6
観点	知識･技能	76.5	72.5	70.5
	思考･判断･表現	69.1	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

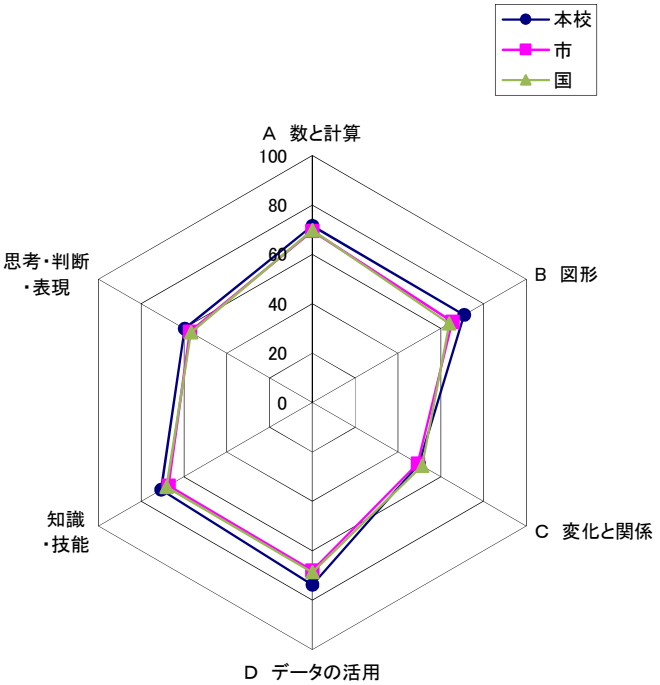
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，ほぼ全国平均よりも上回っている。 ○話し合いの中で，相手とのつながりをつくる言葉がけや，複数の意味を持つ言葉を理解し，正しく理解することができている。。 ●文章内のひらがなを漢字に直す問題の「ろくが」では，全国平均を1ポイント下回っている。	・日頃から様々な文章を積極的に読もうとする習慣を身に付けさせる。その際に，文章を展開させる言葉や文と文のつながりをつくる言葉の働きを意識して文章を読ませるように指導していく。 それにより，さらに深い読み取りができることになると思われる。 ・漢字の誤答については，漢字の一部を間違えてしまう場合もあるようである。日頃から書く練習を丁寧に行うことを心がけさせ，正確に漢字を覚えられるように指導していく。
（3）我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，全国平均よりも上回っている。 ○用紙全体の関係に注意して，文字の大きさに気を付けたり，行の中心はそろえたりする配列の理解においては，全国平均を大きく上回っている。 ●漢字より仮名は小さくといった文字相互の大きさだけでなく，用紙全体との関係から考えられる文字の位置や字間，行間への理解に課題が見られる。	・用紙全体との関係から判断される文字の大きさや行の中心，字間，行間に意識させながら文章を書く指導を継続的に行う。 ・ゆっくりと丁寧に書くのか，ある程度の速さで端的に書くのか判断させながら，書く場面の状況に応じて速さを意識して書く指導を行っていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は，全国平均よりも上回っている。 ○1三、1四ともに全国平均より高い。その中でも1四では9ポイント上回っている。朝のスピーチやグループ活動，学級活動での話し合いで力が身についてきた成果ではないかと考える。 ●1四の設問では，立場は選べているが解決方法が書くことができていない児童が多かった。	・発表者は要点をまとめて筋道をたてて話す指導を行っていく。また，聞き手は発表者の意図や重要な所を理解できるように意識して聞けるよう指導していく。 ・スピーチ等の話す活動をする際に，質疑応答の時間を設けることで，より詳しく話せるよう指導していく。 ・学級活動などで自分の考えを明確に持ち話合いに参加し，時間内に結論を出すことができるよう指導していく。
B 書くこと	全国平均を10ポイント程度上回っている。 ○文章構成の工夫を読み取る問題では，60%以上の児童が正答を書いている。 ●伝え合いの様子が書かれた文章を読み取り，内容について作文する問題は，正答率が50%を下回っている。文章を読んで正しく読み取る力，読み取ったことを整理して適切に作文する力を高めていく必要がある。	・文章構成について正しく理解できるようにし，構成を意識しながら文章を書く活動を学年に応じて今後も指導していく。 ・文章の要点やキーワードを意識して読み取ることができるように指導していく。 ・分かりやすく伝えるという目的意識を大切にできるようにし，伝えたいことを要点を整理しながら，文章で表現する活動の充実を図っていく。
C 読むこと	平均正答率は，全国平均を上回っている。 ○登場人物の気持ちや相互関係について，叙述を基に捉える問題については全国平均を大きく上回っている。学校生活の中で，読書活動を多く取り入れている成果と考えられる。 ●表現の効果を考える問題については平均を上回っているものの，場面を想像することに苦手意識を持っている児童がいることが考えられる。	・今後も読書活動を多く取り入れていく。また，読み取った後の感想や意見等を文章で表す表現活動も行い，確実に読む力が伸びるような指導を今後も続けていく。

宇都宮市立姿川第二小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と計算	71.6	69.5	69.8
	B　図形	70.9	65.4	64.0
	C　測定			
	C　変化と関係	49.8	49.3	51.3
	D　データの活用	73.8	68.0	68.7
観点	知識・技能	70.7	67.3	68.2
	思考・判断・表現	59.7	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

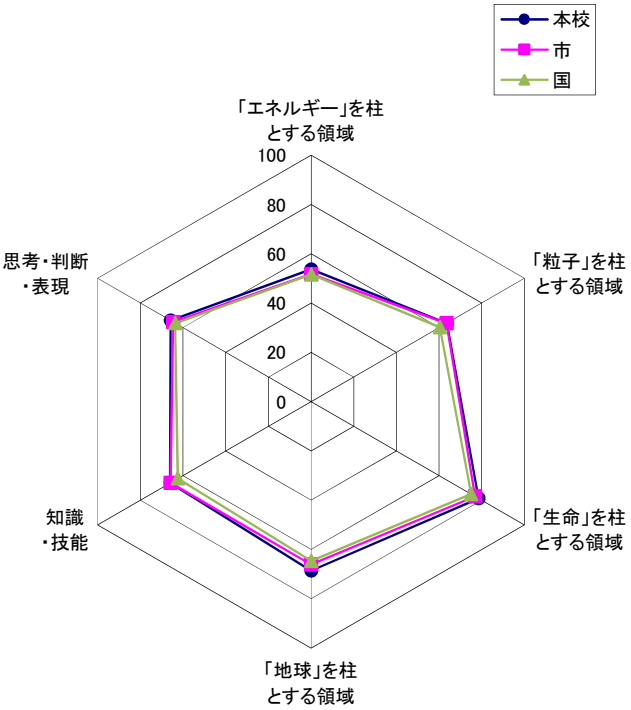
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と計算	○加法及び減法の計算が確実にでき，正しく答えることができており，市平均を2．1ポイント上回っている。 ○示された場面において，目的に合った数の処理の仕方を問われる設問では県の平均を1．4ポイント上回っている。 ○表の意味を理解し，全体と部分の関係に着目して，必要な数を求める設問では，県の平均を7．2ポイント上回っている。	・日常生活の問題を解決するために，具体的な場面に対応させながら，事柄や関係を式に表すことができるよう指導する。 ・自分で求めた答えや立式が問題文に適しているか，問題を解いた後に確認する習慣をつけるような指導を継続する。 ・既習事項の定着を図るために，授業内容と既習事項を関連させた問題に取り組ませる。
B　図形	○正三角形やひし形の性質を理解しているか問われる設問では，県の平均を8ポイント以上上回っている。 ○その他の設問も県の平均を4ポイント以上上回っており図形の性質や構成の仕方について理解していることがうかがえる。	・図形を作図する活動や具体物を操作する活動を取り入れ，図形についての感覚を豊かにするとともに，図形の性質を見いだしたり説明したりする過程で数学的に考える力や表現する力を身に付けられるようにする。
C　変化と関係	平均正答率は全国・県平均を上回っている。 ○百分率で表された割合を分数で表す設問では，県の平均を7．8ポイント上回っている。 ●比較量や基準量を判断し，計算の仕方を説明する設問において，県の平均を下回っており，課題が見られる。	・初めて出合う文章に関して，二つの数量の関係をどのように比べるかを考えながら読むようにさせ，数量間の規則性を見つけることができる力を伸ばせるよう，今後も指導を続けていく。 ・授業だけでなく，日常生活において関連する課題に取り組ませるなど，繰り返し学習をすることで定着を図る。
D　データの活用	平均正答率は全国平均を上回っている。 ○目的に応じて円グラフを選択し，必要な情報を読み取る設問では，県の平均を9．4ポイント上回っている。 ○その他の設問でも国・県の平均を上回っていることから，データの活用について理解していることが伺える。	・グラフの比較や活用については，算数科以外の学習の場面においてもグラフを読む機会を数多く設け，読み取った内容について意見を交換し合う活動を取り入れる。

宇都宮市立姿川第二小学校第６学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	53.7	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	63.6	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	78.5	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	68.6	66.1	64.6
観点	知識・技能	66.0	65.9	62.5
	思考・判断・表現	65.9	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は，県平均や全国平均よりも高い。 ○実験の過程や得られた結果についての適切な記録の仕方について，よく理解できている。 ○実験の方法を検討して，改善し，自分の考えを持つことについて，県平均や全国平均をそれぞれ8ポイント以上上回り，よく理解できている。 ●日光は直進することについての理解に課題がある。 ●実験で得た結果を問題の視点で分析して，解釈し，自分の考えを記述することに課題がある。	・児童が観察，実験などの結果を整理し，考察，表現する活動を多く取り入れるようにするとともに，実感を伴った理解を図る学習活動を重視する。 ・習得した知識を，次の学習や生活などに生かすことができるようにすることの重要性について意識して授業を改善していく。 ・予想したことが確かめられる方法になっているかを確認し，そうではない場合について，その要因を見いだし，より妥当な解決の方法を検討して，改善できるようにすることの重要性について意識した授業を実践していく。
「粒子」を柱とする領域	この領域の正答率は63．6ポイントと全国の平均正答率より3．2ポイント高い。 ○鉄棒に付着していた水滴と水の粒は何が変化したものかを書く設問では，正答率が70．2ポイントと全国の平均正答率を8．2ポイント上回っており水は水蒸気になって空気中に含まれていることがしっかりと定着していることがわかる。 ●凍った水溶液について，試してみたいことを基に見出された課題を書く設問では正答率が43．8ポイントと全国の平均正答率を4．5ポイント上回っているものの正答率を高めていきたいと考える。	・論理的に物事を考える能力の伸長を図るため普段から科学的な思考の育成を促す活動を取り入れていき，それを文章化できる体験を積ませていきたい。 ・引き続き実験用具の使用に関しては実感を伴った理解を促すため実験等で個別に活用の方法を体験させていくようにしたい。 ・実際に実験した結果と結果から自分の考えを持てるよう，授業の流れの中に一貫性を持った流れを作り上げるよう取り組んでいきたい。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は78．5%で、他の単元と比べて最も高く、また県の正答率を1．7%、国の正答率を3．5%上回っていた。 ○知識・技能を問われる設問では、正答率は81．2%で県や国の正答率を上回っていた。 ●二次元の表から気づいたことを基に問題を見出して選ぶという設問では、資料の中の文章と図表とを結び付けて，条件に合う必要な情報を見つけることに課題がある。	・今後も基本的な知識・技能の内容の定着を図る指導を続けていく。 ・昆虫などの学習の際に実物をよく観察するなどして、児童の関心を高めたり理解を深めたりする指導を行う。 ・複数の資料や図表、文章を結び付けて考え、整理したり答えを導いたりする機会を増やす。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は全国平均を上回っている。 ○冬の天気や気温について，観察で得た結果を，問題の視点で分析して解釈し，自分の考えをもつことができている。知識として，水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解できている児童が全国・県と比べて多い。 ●観察などで得た結果を分析して，解釈し，自分の考えをもつことについては，課題がみられる。	・観察や実験の前には，『予想』→『観察・実験』→『結果』→『考察』という流れを，日頃の学習に取り入れ，自分の考えをもてるような活動に取り組む。 ・自分の考えをきちんと持てるように，個人で考える時間やノート等に記入する機会を多く設ける。 ・児童間で積極的に意見交流し，自分の意見について改めて考えを深めるような活動に取り組んでいく。

宇都宮市立姿川第二小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか。」「毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか。」「毎日，同じくらいの時刻に起きていますか。」の質問に肯定的に答えた児童の割合は，県や国の平均よりも高い。また，携帯電話やスマートフォンを持っていない児童が多く，持っている児童の使用時間は県の平均よりも短い。規則正しい生活の大切さを意識している家庭が多いと考えられる。
○「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の質問に肯定的に答えた児童の割合は，県の平均よりも9．6ポイント高く，国の平均よりも21．4ポイント高い。「学校に行くのは楽しいと思いますか。」の質問に肯定的に答えた児童の割合も高く，国の平均よりも12．1ポイント高い。児童のよいところを伸ばそうと意識して指導している教員が多いと考えられる。
○「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の質問に肯定的に答えた児童の割合は，県や国の平均よりも高い。年2回の「いじめゼロ」強調月間に合わせて，様々な取り組みをしている成果が表れているのだと考えられる。
○「自分の思いや考えをもとに、作品や作文などを創り出す活動を行っていましたか。」の質問では、肯定回答が国の平均よりも7．1ポイント高い。学校課題として継続して表現力を高める活動をしてきた成果だと思われる。
○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習課題に取り組んでいますか。」の質問では、肯定回答が県の平均より6ポイント、国の平均より12．4ポイント高い。総合的な学習の時間に加えて、各教科や特別活動で発表する経験を積み重ねたことも一因であると考える。
○「国語の勉強は大切だと思いますか。」「算数の勉強は大切だと思いますか。」という質問では、どちらも肯定回答が98．4%だった。さらに、「国語・算数で学習したことは将来社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問に対して、国語・算数ともに肯定回答が97%程度であった。
●「読書は好きですか。」の質問に「当てはまる」と「どちらかといえば，当てはまる」と答えた児童の割合は，80．3ポイントと高いが，「学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，読書をしますか。」の質問に「30分未満」と答えた児童の割合は65．3ポイントである。今後も「家読」を継続したり，貸出冊数を増やしたりして，家庭でも本に親しむ機会を増やしていきたい。
●「放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか。」の質問に，「家でテレビや動画を見る，家族と過ごす」と答えた児童が多い。県や国と比べても若干多い。新型コロナウィルスの感染拡大の影響で，家庭で過ごす児童が増えたことが考えられる。
●「5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。」「学校で学級の友達と意見交換する場面でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか。」の質問での肯定回答は県や国の平均よりも下回っている。しかし、「学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。」の質問では、肯定回答が96．8%と高いため、今後の授業で積極的に活用する場面を設定していきたい。

宇都宮市立姿川第二小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
読解力・表現力の育成	様々な場面で根拠を示して相手に分かりやすく伝えるよう指導している。音読や読書活動を通して，語彙力・表現力を高める指導をしている。	登場人物の気持ちや相互関係について，叙述を基にとらえる問題については全国平均を大きく上回った。今後も読書活動を多く取り入れ，読み取った後の感想や意見等を文章で表す表現活動も行っていく。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	宇都宮モデルをもとに，子供が「やってみたい」「知りたい」と思わせる導入の工夫や振り返りを自分の言葉で書かせる時間の確保を行っている。	自分の思いや考えをもとに作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていたと，肯定的に回答する児童は比較的多い。自信をもって自分の言葉で話せる児童を目指して指導を行っていく。
家庭学習の習慣化	発達段階に応じた家庭学習の内容・時間等を懇談会や便りなどで周知したり，年2回，家庭学習強化週間を実施したりしている。	計画を立てて家庭学習に取り組む児童がいる反面，否定的な回答をする児童も少なくない。家庭の協力も仰ぎながら，適切な内容ややり方についての指導を継続して行っていく。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において，特に算数や理科の問題で，全国平均を下回る問題がいくつかあった。	自分の言葉で書く活動や示された言葉を使いながらまとめる場の工夫。 根拠をもとに自分の考えをまとめていく指導の実践。	授業の中で，自分の言葉でまとめたり，感想や振り返りをまとまった文章で書いたりする場を意図的に設定する。大切な語句や例を挙げて書くことも意識させる。良いまとめ方や考えを全体で共有し，表現力の向上を図る。